

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)





令和4(2022)年 10 月(週報第 40 週～第 43 週(10/3～10/30)集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {10 月は4週間、9 月は4週間、前年同期は4週間での比較となります。}

## (1)概況

ア. 10 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は、**14,033 件**(9月 **23,843 件**)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **751 件**(定点あたり 4.25 件/週)であり、9 月の **1,428 件**(定点あたり 7.56 件/週)と比較し、週あたり **0.56 倍**とかなり低い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
RSウイルス感染症	<b>247 件</b> (週あたり平均 61.75 件)	 <b>(0.45 倍)</b> 前月は 548 件 (週あたり平均 137.00 件)	 <b>(8.23 倍)</b> * 前年同月 30 件 (週あたり平均 7.50 件)
手足口病	<b>213 件</b> (週あたり平均 53.25 件)	 <b>(0.35 倍)</b> 前月は 601 件 (週あたり平均 150.25 件)	 <b>(16.38 倍)</b> * 前年同月 13 件 (週あたり平均 3.25 件)

- ① **RSウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 0.45 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 8.23 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ② **手足口病**は、前月に比べ報告数が 0.35 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 16.38 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

## (2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1 類、2 類、3 類疾病及び指定感染症

結核 938 件(9月 1,061 件)、腸管出血性大腸菌感染症 308 件(9月 436 件)、腸チフス 3 件(9月 1 件)、パラチフス1件(9月 0 件)、新型コロナウイルス感染症 943,083 件(9月 1,877,793 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	972	1,078
2	レジオネラ症	235	251
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	177	207
4	日本紅斑熱	102	82
5	侵襲性肺炎球菌感染症	101	66
6	後天性免疫不全症候群	59	62

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 **14,033 件**)

結核 14 件、腸管出血性大腸菌感染症4件、マラリア1件、レジオネラ症5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件、後天性免疫不全症候群2件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、梅毒 12 件、破傷風1件、新型コロナウイルス感染症 13,990 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

## 2 疾病の予防解説

後天性免疫不全症候群（エイズ）について解説します。

後天性免疫不全症候群（エイズ）は、HIV の感染によって体の免疫力が低下しその結果として、日和見（ひよりみ）感染症や悪性腫瘍を併発した状態をいいます。

毎年 12 月 1 日は、エイズ のまん延防止とエイズ患者や HIV の感染者に対する差別・偏見の解消を目的とし、1988 年に世界保健機関（WHO）により「世界エイズデー」として定められました。エイズと同じく、性感染症である梅毒感染者も増加傾向にあることから、エイズとともに今後の発生動向に注意し、予防対策を心がけましょう。

なお、県内の健康福祉センター（保健所）では、HIV や梅毒の検査を匿名・無料で受けることができます。予約が必要な場合がありますので、検査実施場所及び日時等を、以下の栃木県ホームページで事前に確認してください。

● 栃木県 ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/hoken-eisei/kansen/hp/hivkensa.html>

● 梅毒に関する詳細情報は、栃木県感染症情報センターのトピックス「梅毒について」をご覧ください。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/tidctop.html>

疾病名	後天性免疫不全症候群（エイズ）
原因と感染経路	病原体は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus ; HIV）です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。主な感染経路は、性行為によるもので、HIV に感染した人の精液、膣分泌液などに含まれたウイルスが粘膜や傷口を通して人の体内に入ることにより感染します。まれに母子感染（経胎盤、経産道、経母乳感染）や血液感染があります。
症状	HIV 感染からエイズ発症までの自然経過は、感染初期（急性期）、無症候期、エイズ発症期の 3 期に分けられます。 I. 感染初期（急性期）：発熱、咽頭痛、筋肉痛、皮疹、リンパ節腫脹、頭痛などのインフルエンザあるいは伝染性単核球症様の症状が出現するとされています。症状は無自覚から無菌性髄膜炎に至るまで様々で、数日から 10 週間程度続き、多くの場合自然に軽快します。 II. 無症候期：ピークに達していたウイルス量は 6～8 カ月後にある一定のレベルまで減少したところで安定し、その後数年～10 年間ほどは症状がなく経過します。 III. エイズ発症期： HIV 感染後治療をしないしていると HIV 感染がさらに進行して免疫力が低下し、健康なときにはかからない弱い病原体によってもかかる日和見感染症や悪性腫瘍を発症します。また、食欲低下、下痢、低栄養状態、衰弱などが著明となります。
予防対策	○コンドームを正しく使う ○かみそり、歯ブラシなど、血液が付着しやすいものの共有は避ける ○早期発見・早期治療 感染の可能性がある場合はきちんと検査を受け、感染していたらすぐに治療を始めることが大切です。ただし、初期は、検査をしても感染しているかどうか分かりません。感染の可能性がある機会から 3 カ月以上経ってから検査を受けましょう。
治療	治療には、3 剤以上の抗 HIV 薬を組み合わせる多剤併用療法があります。治療によりウイルスを完全になくすことはできませんが、病気の進行を大幅に抑えられ HIV に感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

（疾病の予防解説 参考）国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

厚生労働省 ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/>

エイズ予防情報ネット（API-Net） <http://api-net.jfap.or.jp/>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、10 月に県全域及び各保健所管内で発生した警報および注意報は、次のとおりです。

	第 40 週 (10/3～10/9)	第 41 週 (10/10～10/16)	第 42 週 (10/17～10/23)	第 43 週 (10/24～10/30)
手足口病	【警報】 安定			

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位 1 %以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。